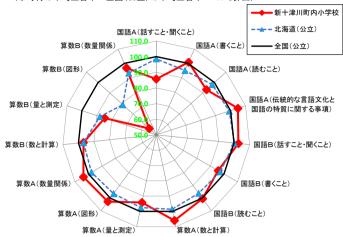
■新十津川町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、児童数:54人)

【教科全体の状況】

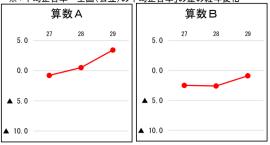
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

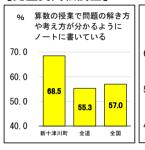


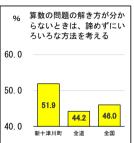
【平均正答率の全国との差の推移】

※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

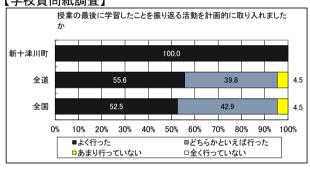


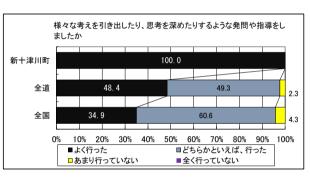
【児童質問紙調査】





【学校質問紙調査】





【分析】

レカカル	
教 科	○ 国語Aでは、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語」 の特質に関する事項」、Bでは、「話すこと・聞くこと」「読むこと」で全国を上回っている。
	〇 算数Aでは、「数と計算」「図形」「数量関係」で全国 を上回っている。
児童質問紙	○ 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。
	○ 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した児童の割合が、全国を上回っている。
学校質問紙	○ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画 的に取り入れた。

-) 授業の最後に学習したことを振り返る活動を 計画的に取り入れた結果、学習内容の定着 が図られてきていると考えられる。
- 様々な考えを引き出したり、思考を深めたり するような発問や指導を行ったりした結果、算 数の問題の解き方や考え方が分かるように ノートに書いたり、問題の解き方が分からない とき、諦めずにいろいろな方法を考えたりする 児童が増え、算数Aで全国の平均正答率を 上回るとともに、Bで全国との差が縮まったと 考えられる。

【新十津川町の学力向上策】

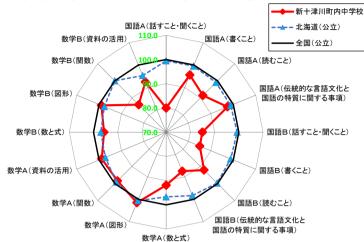
- ◎ 「学習支援サポーター」「学力向上推進講師」を活用した「ティーム・ティーチング指導」の実施
- ◎ 長期休業中の学習サポート「やまびこ」の取組の継続
- ◎ 英語活用経験のある講師を新規に配置した、小学校第5・6学年の外国語活動や教職員の英語力指導の実施
- ◎ 中学校英語教諭の乗り入れ授業の拡大
- ◎ 小・中学校への支援員の配置による特別支援教育の充実
- ◎ 「読書通帳システム」の導入による読書推進活動の充実

■新十津川町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1校、生徒数:58人)

【教科全体の状況】

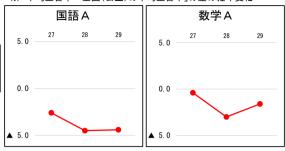
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

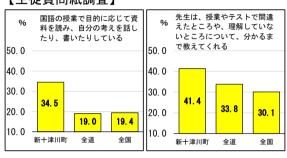


【平均正答率の全国との差の推移】

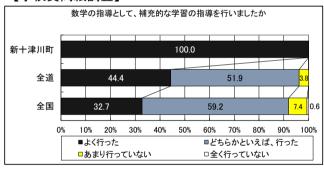
※「平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

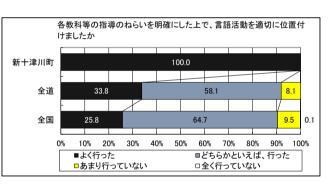


【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】





【分析】

- 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国に最も近くなっている。

 教 科

 数学Aでは、「図形」で全国を上回っている。

 数学

 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。

 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた。
-) 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、 言語活動を適切に位置付けた結果、授業で 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話し たり、書いたりしている生徒の割合が全国を 上回ったと考えられる。
 - 数学の指導として、補充的な学習の指導をよく行った結果、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれると回答した生徒が増えるとともに、数学Aで全国の平均正答率との差が縮まったと考えられる。

【新十津川町の学力向上策】

- ◎ 「学習支援サポーター」「学力向上推進講師」を活用した「ティーム・ティーチング指導」の実施
- ◎ 長期休業中の学習サポート「やまびこ」の取組の継続
- ◎ 中学校英語教諭の乗り入れ授業の拡大
- ◎ 検定料の全額助成による英検受験の奨励
- ◎ 小・中学校への支援員の配置による特別支援教育の充実
- ◎ 「読書通帳システム」の導入による読書推進活動の充実
- ◎ 放課後学習サポートの実施